

第5号議案

道路改築事業

国道145号(ハッ場バイパス) (長野原町大字長野原～東吾妻町大字松谷)

着工年度

平成 6年度

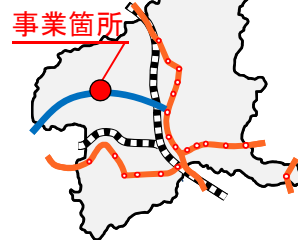
評価理由

再評価後5年経過

1. 事業の目的

- ・国道145号(ハッ場バイパス)は、地域高規格道路である上信自動車道の一部を形成しており、豊かな観光資源を有する吾妻地域の基幹道路として地域の活性化を支援するものである。
- ・本バイパスは、ハッ場ダム建設に伴う公共補償による付替工事とあわせて拡幅改良するものであり、水源地域の生活環境の向上及び地域振興に資するための事業である。

位置図



ハッ場ダム建設に伴う付替交通網イメージ



あがつまけいこく

吾妻渓谷付近の現道



国道145号(ハッ場バイパス)整備概要

2. 事業概要と進捗状況

事業概要

事業場所	ながのほら ながのほら ひがしあがつま まつや 長野原町大字長野原～東吾妻町大字松谷	
区分	今回	前回再評価時
全体事業費	31,853百万円	31,853百万円
事業期間	H 6～H31	H 6～H27
事業内容	道路延長 10,840m 幅員 25.0m	道路延長 10,840m 幅員 25.0m

事業経緯

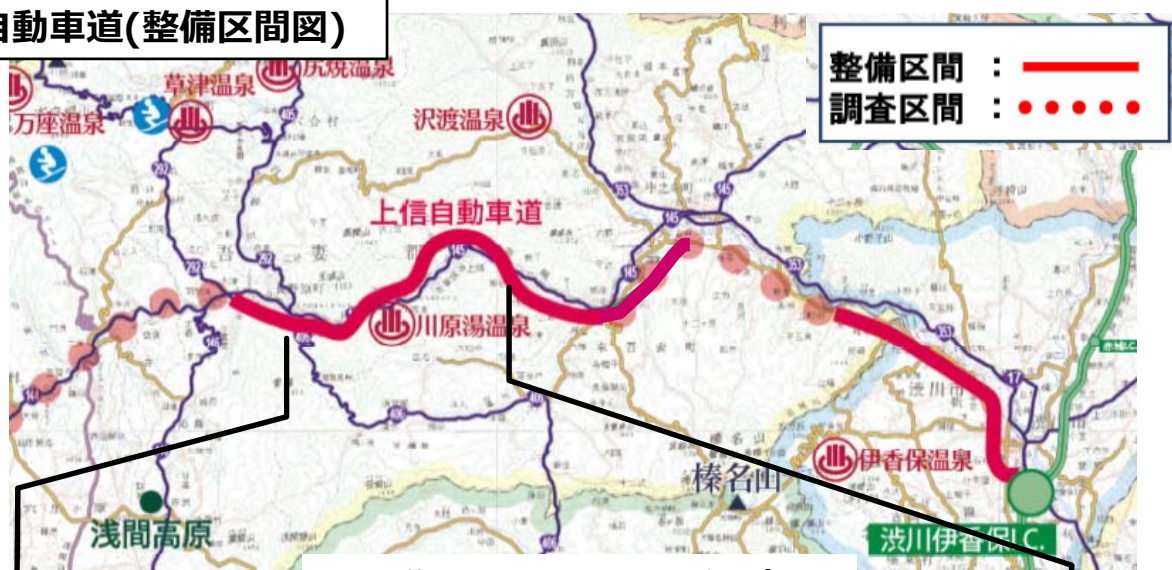
年度	主な経緯
H 8	工事着工
H13	用地買収着工
H23	暫定供用開始

進捗状況

	全体計画	現在の進捗状況 (進捗率)	前回評価時の 進捗状況 (進捗率)
事業費	31,853百万円	18,007百万円 (56.5%)	15,882百万円 (49.9%)
用地買収	424千m ²	419千m ² (98.8%)	337千m ² (79.5%)
計画延長	10,840m	9,240m (85.2%)	5,700m (52.6%)

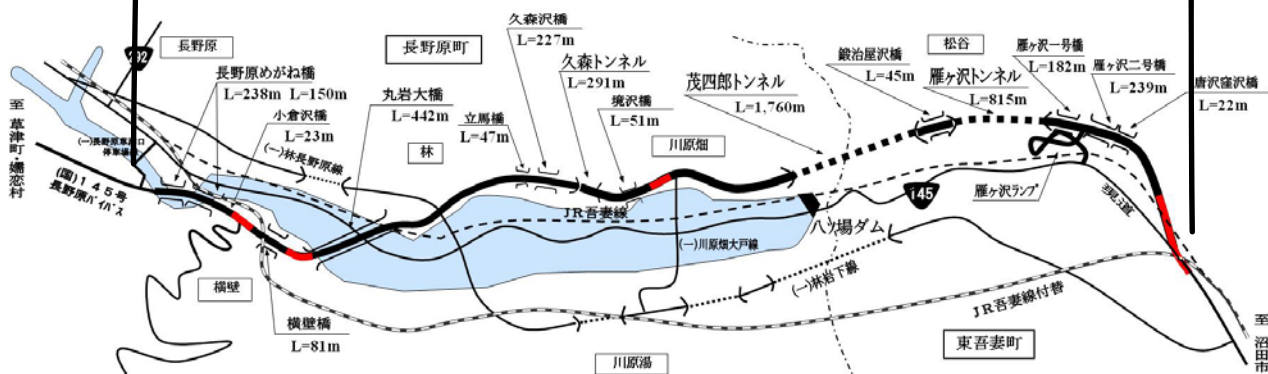
2. 事業概要と進捗状況(図面・写真等)

上信自動車道(整備区間図)



国道145号ハッ場バイパス

全体計画 L=10.8km W=25.0(14.0)m



■ 施工済区間



丸岩大橋(湖面3号橋) H21年度架設



川原畑地区



雁ヶ沢ランプ H22供用開始



横壁地区 H22供用開始



茂四郎トンネル H22供用開始



松谷暫定踏切 H23暫定供用

3. 事業の目的・必要性に変化はあるのか？

- ・県内では、高速交通網の整備が着々と進むなか、国際観光地「草津温泉」を控えた吾妻地域は、高速交通網の空白地帯となっている。このため、「群馬がはばたくための7つの交通軸」の吾妻軸の主軸として、地域高規格道路である上信自動車道の整備・強化に取り組んでいる。本バイパスは、この上信自動車道の一部であり、事業の目的、必要性に変化はない。
- ・本バイパスの整備により、吾妻渓谷付近の幅員が狭く崖崩れの危険箇所が連続する区間が解消されるため、異常気象時の通行規制が撤廃されるほか、走行時間の短縮により、観光客の増加や農作物の輸送の効率化などの効果も期待できる。
- ・また、ハツ場ダム建設により影響を受ける水源地域等にとって、本バイパスは生活再建の基幹施設であり、必要不可欠である。

吾妻峡周辺の危険箇所



茂四郎・雁ヶ沢トンネルの完成



沿道との分離状況(横壁地区)

4. 目的を達成するための事業(手段)は適当か？

- ・本バイパス事業の実施により、通行の安全確保、中核的医療施設への搬送時間の短縮、関越自動車道へのアクセス向上など、吾妻地域と県央地域間における安全性や移動時間の改善を図ることができることから、目的を達成する事業として適当である。
- ・高規格整備により、走行速度は時速40キロから60キロに向上し、関越自動車道の渋川伊香保ICから草津温泉へのアクセス時間が約30分短縮される。
- ・ダム事業による公共補償と合併施工することにより、効率的な整備が可能である。
- ・橋梁の上下線を分離し、一方の橋長を短縮したり、盛土工の材料を購入土から他現場の発生土に変更することにより、コスト縮減を図りながら事業を実施している。

費用便益分析

		前回再評価時		今回再評価時		備考	便益説明
算出根拠マニュアル		平成15年 8月		平成20年11月			
基準年		平成20年		平成25年			
区分	項目	現在価値	構成比	現在価値	構成比		
費用 (千円)	工事費	32,500,000	96.4%	34,900,000	96.1%	社会的割引率を考慮した現在価値化による	
	維持管理費	1,200,000	3.6%	1,400,000	3.9%	マニュアルの標準値から実績値の採用に変更	
費用合計 (C)		33,700,000		36,300,000			
便益 (千円)	走行時間短縮便益	70,100,000	96.5%	38,100,000	95.3%	道路ネットワークの変更による 将来計画ネットワーク (前回) ↓ 事業化ネットワーク (今回)	
	交通事故減少便益	590,000	0.8%	1,700,000	4.3%		
	走行経費減少便益	1,900,000	2.7%	160,000	0.4%		
便益合計 (B)		72,590,000		39,960,000			
費用対効果分析 (B/C)		2.15		1.10			

5. 事業が長期間要している理由は？

【元々が長期計画】

【不測の事態により長期化】

- ・本バイパスは、ハツ場ダム建設に伴う国道145号の付替道路であり、延長10.84km、総事業費318億円の道路新設事業であるため、元々が長期計画である。
- ・前回再評価時点では、ダム事業によるJR吾妻線の付け替えが平成22年度には完了する予定であったが、未だ完了しておらず、仮設踏切の設置や迂回措置により一般供用している。
- ・また、用地買収の難航による迂回が1箇所あり、現在も国による用地交渉が続けられている。



川原畑地区の代替地整備と国道145号状況(H24.9月時点)



松谷地区のJR吾妻線との暫定交差状況

6. 事業の対応方針は？

事業継続

事業中止

変更なし ・ 事業計画の変更 ・ **スケジュールの変更**

・本バイパスは、地域高規格道路に指定された上信自動車道の一部区間であり、豊かな観光資源を有する吾妻地域の活性化に寄与するものである。本事業は、ハツ場ダム建設に伴う公共補償とあわせて行う拡幅改良であり、水源地域の生活環境の向上及び地域振興が図られるものである。

・延長10.84kmという大規模な付替道路工事であり、ダム事業との連携および水没関係者との調整などにより長期間を要したが、平成23年度に暫定供用開始したところである。

・しかしながら、東吾妻町松谷地区のJR吾妻線仮設踏切では、観光シーズンに渋滞が発生しているため、JR吾妻線の付け替え後、速やかに完成形での整備を進める必要がある。

・本事業は、ハツ場ダム建設事業に伴う生活再建計画の基幹事業として、事業の必要性、重要性は高く、今後もダム事業と協調しながら整備することが最善であり、事業継続が妥当である。

・なお、平成22年度に完了予定であったJR吾妻線の付け替え工事が、平成26年度まで4年間遅れる見込みとなったため、JR吾妻線切り替え後、仮設踏切や迂回措置により暫定供用している区間を平成27年度までに完了させるとともに、その後の交通状況に応じて4車線化整備を進め、平成31年度の完成を図る。